

同じ割合に多かった。野菜炒めと揚げ物は週2～3回が最も多かった。塩分は漬け物を毎日摂っている人が多く塩蔵物を毎日摂っている人が43人もおり、全体に塩分はとりすぎと思われた。

## 12 糖尿病網膜症に対する硝子体手術 — 術者別検討 —

吉澤 豊久・太田 正行・長谷部 日  
船木 繁雄・佐藤 弥生・藤井 靖  
馬場恵理子・根本 大志

新潟大学大学院医歯学総合研究科  
生体機能調節医学専攻感覚統合医学講座視覚病態学分野

糖尿病網膜症に対する硝子体手術は技術の進歩とともに成績も格段に向上してきた。しかし、依然として術者間の成績の差は存在する。今回は術者別の成績を検討した。

2001年4月～2002年3月に新潟大学眼科で糖尿病網膜症に対する硝子体手術を行った術者は10名で、16年以上3名(A, B, C), 11～15年5名(D, E, F, G, H), 10年以下2名(I, J)であった。視力改善率はA: 47%, B: 50%, C: 25%, D: 41%, E: 0%, F: 50%, G: 0%, H: 50%, I: 25%, J: 0%で、悪化率はA: 0%, B: 0%, C: 38%, D: 12%, E: 0%, F: 0%, G: 50%, H: 0%, I: 0%, J: 100%であった。経験の浅い術者でやや成績が不良と思われたが、長い経験があっても成績が不良な術者も見うけられた。術者間で差が出ないような手術教育が必要であると思われた。

## 13 糖尿病黄斑症硝子体手術前後の光干渉断層像

土田 宏嗣・吉澤 豊久・太田 正行  
長谷部 日・船木 繁雄・佐藤 弥生  
藤井 靖・馬場恵理子

新潟大学大学院医歯学総合研究科  
生体機能調節医学専攻感覚統合医学講座視覚病態学分野

【目的】糖尿病網膜症における高度の視力低下

の原因となる糖尿病黄斑症に対して硝子体手術を施行し、その有効性について光干渉断層計(OCT)を用いて評価した。

【対象と方法】症例は1999年から2003年に当科にて糖尿病黄斑浮腫に対して同一術者が硝子体手術を施行し、術前後にOCT検査が施行された17例26眼で、平均60.5歳であった。

【結果】術前視力は平均0.19、術後最高視力は平均0.37で有意な改善をみとめた。術後視力は改善54%、不変39%であった。術前網膜厚は $470 \pm 133 \mu\text{m}$ 、術後3ヶ月で $386 \pm 113 \mu\text{m}$ ( $P = 0.023$ )と有意な減少を認めた。その後長期にかけて中心窩網膜厚は減少し、術後約3年でほぼ正常網膜厚 $168 \pm 53 \mu\text{m}$ となった。

【結論】糖尿病黄斑浮腫に対する硝子体手術は視力改善と浮腫の減少に有効であった。光干渉断層計は黄斑浮腫の経過を数値化して捉えられ、経過観察に有用であった。

## 14 バナジウム含有水の糖尿病患者の血糖値に及ぼす影響

—富士山伏流水は日本を救うのか?—

中村 宏志\*, \*\*・中村 隆志\*, \*\*\*  
中村医院内科\*  
新潟大学大学院医歯学総合研究科  
内分泌代謝分野\*\*  
新潟薬科大学薬理学教室\*\*\*

【目的】バナジウム含有量が多いとされる「富士山伏流水」の経口摂取により血糖値が低下するのにかんして検討した。

【対象と方法】2型糖尿病患者10名を対象に、①米飯200gと湯(水道水またはバナデイス)200mlを経口摂取させ、前、30分後、60分後、90分後、120分後に、血糖、IRIを測定した。②バナデイス500ml/日を2ヶ月間飲用させ、前、1ヶ月後、2ヶ月後に、HbA1c、体重を測定した。

【結果】①水道水とバナデイスとの間に、試験食摂取前後ともに血糖、IRIに有意差を認めなかった。②バナデイスの2ヶ月間飲用では、HbA1c、体重に有意な変化を認めなかった。